

町長所信

(要旨)

この4年間を振り返りますと、東日本大震災という千年に一度の大震災を目の当たりにし、正しく防災に明け暮れた4年間でした。小学校、保育所の高台移転から、病院の高台移転に向けた取り組みにおいて、財政状況の非常に厳しい中、事業を進めるべきか否か、また、如何にして経費の削減を図るかと考え悩んだ4年間でした。

一方、牟岐町が縮小を続ける中、なんとか産業を元気にできないかと、平成25年は、牟岐町再生会議を開催しましたが、皆様の後押しはいただけませんでした。しかしながら、存続が非常に困難な状況にある出羽島は、重要伝統的建造物群の選定を目指し、今後の住宅も含めた島内施設の維持管理に、国や県の支援のもと文化財として保存していく

取得済みは、着実に進捗していると思っております。また、旧河内小学校や牟岐小学校の活性化センターとしての活用も、まだ道半ばですが、一定の成果を上げています。

継続すべき大きな課題として、これまで同様、防災と地方創生があります。防災は、今では共通認識として全国的にも展開されている地震津波対策だけでなく、豪雨対策があります。今年2月6日の牟岐町における震度5強の地震により、地盤が緩んでいることが予想され、牟岐町の土砂災害警戒情報と大雨警報の発表が、従来より少ない雨で出されるようになりました。土砂くずれは、津波のように事前予告はなく、突然発生します。後悔することのないよう早め早めの対応をした

倒などで避難できないことがないようするべきですが、大変大きな課題です。

つぎに、今全国で取り組んでいる地方創生ですが、第三次安倍内閣の最重要課題として、また徳島県の最重要課題として、実際に行動する市町村に大きな期待が掛けられています。今年度は、来年度からの行動開始に向け、総合戦略計画を策定する年です。まずは部落の皆様、そして、企業経営者、団体の代表者の方々、若者からお年寄りまで、全ての皆様が、今後、牟岐町で、継続して、生活を営むにはどうすれば良いのかを、牟岐町の全ての方々にお尋ねし、計画を策定したいと考えています。まずは、雇用を創造するために、一次産業の再生をベースとした二次、三次産業の再生、また、産業の活性化にも大きく寄与する観光振興を図るため、観光資源の開発や健康産業の育成を図りたいと考えています。現在は、出羽島の伝統的建造物群の選定に全力で取り組んでいます

すが、つぎは、内妻、灘、辺川、三協地区のそれぞれの美しい自然の再生に取り組みたいと考えています。また、中村・牟岐浦地区の古民家や路地も牟岐町の文化的史跡であるばかりか、散策に非常に魅力的な空間です。これらの地区を出来る限り昔の景観に近い形で保全できるように取り組みたいと考えています。

地方創生に必要なソフト事業として、人材育成と福祉施策があります。地方創生計画の中で保育と教育の充実、そして地域包括ケアシステムの構築を図りたいと考えています。牟岐町

では、小学校の統合以来、小・中一貫教育への取り組みを進めました。県下で2校、国の支援も頂きながら、少子化の進む我が国の先鋭的な取組として実施しましたが、学校の抱える課題解決に向け、更なる充実と発展に努めたいと考えています。また、平成26年8月に



地域創生に係る意見交換会